

広
報

天使びょういん



T E N S H I - H O S P I T A L



タイトル:「滝〜初秋〜」 撮影:東海林 香織さん(札幌市円山にて)



INDEX

p2-3 Scope「地域医療連携室」

p4-5 特集「院内&地域のアレコレ取材!」

p6 シリーズ「天使病院の天使たち」(第7回)

p7 健康レシピ
「目を守る500kcalレシピ」

p8 お知らせ



「地域医療連携室」

～ Regional Medical Cooperation Room ～

地域医療連携室は、病院の玄関（窓口）のような役割を果たしています。紹介状をもった患者さんの対応や、外来受診・入院がスムーズに行えるようサポートしています。広報誌夏号のScopeでご紹介した“医療ソーシャルワーカー”が所属している医療社会事業課と同じ場所にあり、「地域医療連携センター」として機能しています。所属するスタッフの職種は様々で、今回は保健師・看護師・事務員の4名に、仕事の内容や役割などについて話してもらいました。



K:はじめに、天使病院に地域医療連携室(以下:連携室)が設置されたのはいつでしょうか?

U:平成14年に開設されました。以降13年間、紹介患者さんの受け入れ窓口として機能しています。

K:連携室の仕事について教えてください。

N:紹介患者さんの受付窓口となっており、紹介状を持って来院される方はすべてここを経由します。天使病院では、保健師1名と看護師1名、事務員2名の計4名の職員が窓口の対応を行っています。

K:逆に当院から患者さんを紹介する場合はどうなるのでしょうか?

N:その場合も私たちが窓口になります。その中で入院中の患者さんに対する退院後の支援は、同じく地域医療連携センター内にある「医療社会事業課」が担当します。連携室は「前方連携」、医療社会事業課は「後方連携」という役割分担をしながら、患者さんがよりスムーズに治療やケアの継続、移行ができるように協働しています。また他の病院や患者さんだ

けでなく、地域住民の方からの問い合わせを受けることもあります。

K:紹介や問い合わせの内容など、可能な範囲で教えてください。

N:すべての診療科に対して紹介の依頼があります。外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科などの外科系には手術を伴う患者さんのご紹介、消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内科・精神科などの内科系では精査依頼、専門的な治療、入院の依頼、小児科からはより専門的な診断や精査目的のご紹介と、当院は東区で唯一小児病棟を持っているため入院依頼も多いです。産科は合併症のあるハイリスクな妊婦さんのご紹介の他、「里帰り出産」も多く道内各地から、そして南は沖縄まで、全国の病院からご紹介をいただきますね。

U:一般的な問い合わせでは、「天使病院にない診療科で別な医療機関を紹介して欲しい」という依頼も多く、連携室で他の病院を紹介しています。その他は「予約時間外で受診した時の待ち時間がどのくらいか」という問い合わせが多いです。外来がすいている時間帯の確認もあります。

T:「どの先生を受診したら良いですか?」という問い合わせもよくありますね。

Ka:その質問は少し答えにくいです(汗)。ただ患者さんの立場では確かに聞きたくなることだと思います。

K:連携室が窓口になることで患者さんにはどのようなメリットがありますか?

U:初診の方でも紹介状をお持ちなら予約を取ることが出来る場所ですね。



インタビュー
生理検査室 小林(K)



地域医療連携室
中元 裕美子 室長(N)



地域医療連携室
海野 智恵子 係長(U)



地域医療連携室
高野 智子さん(T)



地域医療連携室
工藤 こずえさん(Ka)

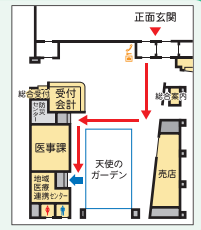
■お問い合わせ■

天使病院西棟1階 地域医療連携室(地域医療連携センター内)

受付時間:(平日)8:30~17:00 (土曜)8:30~12:30

電話番号:011-711-1042(直通)FAX番号:011-711-1049(専用)

※FAXは24時間対応していますが、受付時間を過ぎている場合は、翌日(翌日
日・祝日の場合は休み明け)の対応となります。ご了承ください。



N:紹介状をお持ちの患者さんは、基本的にすべて連携室で受付して、外来までご案内をしています。再診の方でも紹介状をお持ちなら、連携室で受付を行います。

K:なるほど。「紹介状持っている方」=連携室で受付ということでしょうか?

N:地域の先生から直接患者さんの紹介のお電話を頂くこともあるので、患者さんの情報がすべて連携室に集約されます。事前に患者さんの状況を把握した上で対応させていただけるのは、患者さんにとっても私たちにとってもメリットです。

K:年間の受付件数はどのぐらいの数になるのでしょうか?

N:昨年度は年間6,900件くらいで、1ヶ月の延べ件数は500~650件くらいです。医療機関からの受付数だと去年は970件くらいです。札幌市内だと200~300件というところですよ。

K:連携室にお越しの際の注意点はありますか?

N:できるだけ事前にお電話などでご相談いただき、予約することをお勧めしています。そう

なると来院された時にスムーズにご案内ができます。受付に紹介状を持って来られる方の中には、入院が必要なくらい重症の方や、来院された時に希望される診療科が診療していない時間帯という事などがあります。その場合、調整に多少時間を要するため、お待たせしてしまうことがあるためです。

K:最後にこの広報誌をお読みのみなさんにメッセージをお願いします。

N:当院は地域医療の中で急性期病院としての役割を担っています。患者さんに“切れ目のない医療”を提供するためには、他の医療機関や介護福祉施設との連携が欠かせません。そのために窓口である私たちが正確に対応して、地域の先生方にも「天使病院に紹介してよかった」と思ってもらえるようにしたいと考えています。また「地域医療に貢献する」という病院の使命をもとに、当院の医師や地域の先生方とも連携を取っていければと思います。

U:連携室は、医師を含め看護師やコメディカルなど、様々な部署と関わることができ、縦ではなく横の繋がりとしてコミュニケーションを取れるのが特徴です。また紹介されて来てもらっている患者さんを一番に考えて「困らないように対応する」ことを心がけていきたいです。

T:私たちは日々患者さんと関わる仕事ですので、他部署と調整しながら、患者さんがスムーズに受診できるように心がけていければと思います。

Ka:連携室では受付から受診まで患者さんと関わりますので、その方の病気が治って帰っていただけるのが嬉しいですね。



症例紹介

No. 3

初期緑内障の診断に有効

OCT (光干渉断層計) 検査

眼科 曾根 昭子 主任科長



Profile

卒業後、札幌医科大学病院、市立札幌病院、JR札幌病院などを経て2005年4月より天使病院。
趣味はスキー。札幌かとう眼科の加藤院長(P5)とはスキー部の先輩・後輩。

〈認定医・専門医〉
日本眼科学会 専門医
日本網膜硝子体学会 PDT認定医

OCT(光干渉断層計)は網膜の断層像を非侵襲的に画像化する検査装置です。一般的な眼底検査ではわからなかった網膜の厚み、形態変化などがわかるようになり病態が詳細にとらえられるようになってきています。

とくに視力に重要な網膜の黄斑部というところの状態の観察に優れているため、近年話題になっている加齢黄斑変性症や従来から視力障害で問題となる糖尿病網膜症の黄斑浮腫の診断に多く使われています。

加齢黄斑変性症では網膜の下に新生血管という異常血管がみられその周りに様々な変化があります(図1)。また糖尿病黄斑浮腫では(図2)に示す

ように黄斑部に嚢胞様の浮腫が生じているのがわかります。

現在このような疾患に対しては抗VEGF療法といって、病態をおさえる薬を直接眼内に注射する治療を行っておりますが、その治療効果をみるのにも大変有用です。(図3)に示すように治療後改善している状態もよくわかります。

またOCTは緑内障の診断にも有用です。緑内障は視神経が傷害され視野障害を生じる病気ですが、進行しても視力が保たれることが多く自覚症状に乏しい早期に気づきにくい疾患です。そのため検診などでチェックする必要があります。緑内障は視神経乳頭周囲・黄斑部の網膜神経繊維層が薄くなります。OCTでは、その厚みを評価することにより図に示すように薄くなっている所見を検出し診断できます。(図4-5)

この異常は視野障害が出現する前にも検出しやすいので初期緑内障の診断としても価値が増しています。

当院では緑内障の診断・治療、加齢黄斑変性症や糖尿病黄斑浮腫に対する抗VEGF療法も積極的にこなっておりますのでお気軽にご相談ください。

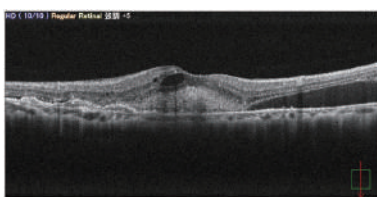


図1: 加齢黄斑変性症
網膜剥離、網膜下に進出性変化を認める。

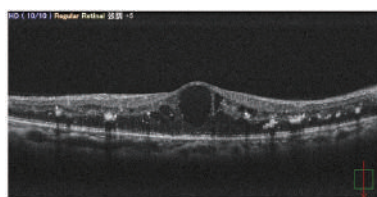


図2: 糖尿病黄斑浮腫

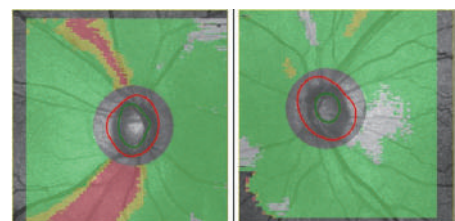


図4: 赤い部分: 視神経乳頭周囲 網膜神経繊維層が薄いと
ころを示す



図3a: 加齢黄斑変性症

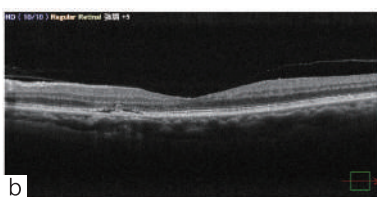


図3b: 治療後網膜剥離が軽減している

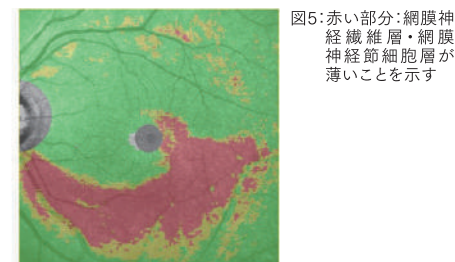


図5: 赤い部分: 網膜神経繊維層・網膜神経節細胞層が薄いことを示す



かとう ゆうじ
院長 加藤 祐司 医学博士

Profile

平成23年7月開院。札幌市出身、旭川医科大学卒。

趣味はスキー（大学時代は競技スキー部）、ドライブ、ワイン、そして美味しいもの巡り。

Q. クリニックの沿革を教えてください。

平成23年7月7日、七夕の日に開業しました。丸4年が経ち5年目を迎えたところです。大学を卒業後、釧路赤十字病院、旭川医科大学病院で最先端の眼科医療に従事していたところ、お隣のあべ耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニックの安部先生からお誘いいただいたことがご縁で、出身地である札幌市で開業することにしました。今までに培ったノウハウと経験を活かして患者さんにとってより身近な存在であるクリニックで「大学病院レベルの最先端の医療を提供したい」という思いで開業以来やってきました。

Q. 失礼ながら、クリニックで大学病院並みの最先端医療を提供することはとても難しいことではないでしょうか？

眼科という専門領域だからこそ実現できたということはあると思います。最先端医療を提供することはできないのではないかと、診療の幅が狭まるのではないかと、という不安がなかったわけではありませんが、実際には最新鋭の医療機器と私の他3人の専門医、優秀なスタッフたちのおかげで、大学病院レベルの医療を提供することができています。日帰りで白内障手術は年間1,000例以上行っていますし、中でも多焦点眼内レンズといういわゆる遠近両用レンズを用いた白内障手術の先進医療認定施設にもなっています。クリニックでは珍しいスタイルだと思いますね。

Q. 診療上のポリシー、こだわりについてお聞かせいただけますか。

まずは大学病院レベルの先進医療を提供することです。それと、診察から治療・手術までをできるだけ当院で完結できるようにすることですね。それが患者さんにとって不安と負担の軽減になると思っています。治療方法として複数の選択肢を示し、それぞれのメリットやデメリット、特徴など説明をして患者さんの思いやご要望をお聞きしながら一緒に治療方法を決定していくというプロセスを私はとても大切にしています。私はもともと硝子体を専門としていたの

ですが、患者さんに複数の選択肢を提供するためには、その専門性を深く追求するだけでなく専門性の間口を広げること、広げた間口の奥行きを深めることが必要になってきます。ですから今も学会や研究会にも積極的に参加して新しい知識や技術を取り入れることに努めています。また、少々語弊はありますが、勤務医時代に比べて患者さんの生活や治療による身体的、金銭的負担についても治療方針とともに考えるようになりました。保険のことや高額医療費のことなど、診療以外の勉強もするようになりましたよ。

Q. 今後、新たに目指していることがあれば教えてください。

最近「流涙」の治療にも力を入れています。流涙とは涙道閉塞によって起きる涙の“排水”がうまくいかない病気です。涙道は外から見ることができないため、私たちは涙道内視鏡を使用して検査や治療を行います。涙道内視鏡では外から見えない涙道が良く見えるための確かな検査や治療が行えますし、顔に傷をつけずに治療することができるので患者さんの負担が少なくすみます。涙道内視鏡は道内ではまだまだあまり普及していませんので、もっと普及させていきたいですね。もう一つ、実はご縁があつて10月に恵庭市でクリニックを開設することになっています。長くその地域の眼科医療を担ってこられた先生からクリニックを引き継いでいただくことになったのです。しばらくは先生にもお手伝いいただきながら、今まで同様その地域の眼科医療に貢献していきたいと思っています。

Q. 天使病院との連携について、望むこと

当院で手術後に入院の必要な患者さんや全身麻酔での手術が必要な患者さんの受入れなど、いつも大変お世話になっています。予定通りにいかずご迷惑をおかけすることもあります（ご迷惑をおかけしないように頑張っておりますので）、今後ともよろしく願います。

所在地：〒065-0031 札幌市東区北31条東16丁目1-22

電話：011-780-2111

ホームページ：<http://www.katoganka.jp/index.php>

診療科目：眼科

休診日：第1・3・5日曜、祝日

診療時間

| 時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00~12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 14:30~18:00 | ● | ● | ● | ● | ● | | |

※日曜日は第2・4のみ





天使病院の天使たち!

認定看護師のお仕事 vol.3

～乳がん看護～

認定看護師のお仕事、今年度第3回は「乳がん看護」の専門性、取り組みや活動についてご紹介します。



乳がん看護

認定看護師 西4病棟 河村 清美 さん

乳がん看護認定看護師は、乳がんの治療や看護に関する専門的知識と技術を持ち、乳がん患者さんとそのご家族に対して、治療に伴う「からだと心と生活のサポート」を行っています。

現場での役割は、乳がん告知後の心理的サポート、治療方法選択時のアドバイスとサポート、治療による副作用のケア、ボディイメージの変容に関わるケア、術後のリンパ浮腫のケア・予防のアドバイスを行っています。また、手術による乳房の喪失や変形した乳房に対して、適切な補整下着の情報提供も行ってあります。



補整下着の一例



リンパ浮腫の治療着衣の一例



勉強会開催の様子

私は外科病棟(西4病棟)に所属しており、病棟スタッフに対しても、乳がん看護の勉強会を開催し、当院で手術を受けた患者さんが安心して治療に専念できるようサポートしています。

外科医師と共に、乳がん患者さんの看護に携わる看護師への指導・相談を通して、実践的・直接的なケアの向上に努めています。また、院内にいる認定看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー等のコメディカルと共に、より質の高い乳がん看護を提供できるよう活動しています。

毎月第2金曜日には『乳がん看護相談外来』を行っており、リンパ浮腫のケア、補整下着やウィッグの相談を受けています。治療による副作用症状に対するセルフケアの指導も行っていますので、お気軽にご相談ください。

乳がん看護相談外来(外科外来)：毎月第2金曜日9:00～11:00



相談風景



10月18日は
日曜日でも
「乳がん検診」の日



10月第3日曜日(10/18)は、 日曜日でも『乳がん検診』を受けられる日です!

～ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(J.M.S)のご案内～

「ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(J.M.S)」とは、日本乳がんピンクリボン運動(NPO 法人J.POSH)が全国の医療機関や自治体の検診担当部門に「10月の第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィー検査が受診できる環境づくり」を呼びかけた日本で初めての取り組みです。

天使病院では、昨年に続き今年も『賛同医療機関』として参加を表明しました。ぜひ、この機会に乳がん検診を受けましょう!



※「予約制」です。健診室へお電話ください。
(詳細は病院HPに掲載しています)

天使病院 健診室

〔TEL〕011-711-0101(代表) 〔受付時間〕月～金 13:00～17:00

目を守る 500kcal レシピ



たんぱく質 19.1g 脂質 14.9g
塩分 2.6g 食物繊維 8.9g

とろろご飯／ぶり大根ソテー／
卵とほうれん草の炒め物／秋の焼き野菜
フルーツ(梨&柿)

1食あたり

520kcal



Comment

「活性酸素」が原因ともいわれる目の疾患、視力低下やドライアイ、老眼、白内障、加齢黄斑変性などから目を守るには、抗酸化作用のある4大栄養素を積極的にとることが効果的です。呼吸によって取り入れた酸素のうち約2%が「活性酸素」になると言われ、細胞をサビ(酸化)させる力が強く、老化を早め病気を引き起こす原因となります。

4大栄養素には、①抗酸化ビタミン群(ビタミンA・C・E)、②ルテイン、③ミネラル(セレン、亜鉛)、④不飽和脂肪酸(EPA、DHA)があり、これらを含む食材を利用した料理を紹介します。料理はすべて、10月6日(火)に開催した糖尿病予防教室(バイキング形式料理教室)で提供しました。

各食材に含まれる成分と効能を表に
しめします。

(天使病院 栄養科 佐々木正子)

| 料理 | 食材 | 成分 | 効能 |
|-------------|-------------|------------------|---|
| とろろご飯 | 長いも | 亜鉛 | 免疫担当細胞である白血球を、活性酸素の害から守る。 |
| ぶり大根ソテー | ぶり | ビタミンA EPA、DHA | 粘膜を保護し、目に潤いを与える。 網膜の機能改善に役立つ。 |
| 卵とほうれん草の炒め物 | 鶏卵 ほうれん草 | セレン ルテイン | 免疫担当細胞である白血球を、活性酸素の害から守る。 目の網膜と水晶体に働き、活性酸素を取り除く。 |
| 秋の焼き野菜 | 赤ピーマン | ビタミンE | 活性酸素による細胞の破壊を防ぐ。 |
| フルーツ | 梨、柿 | ビタミンC | 眼球からの出血、老化や白内障を予防する。 |

とろろご飯

たんぱく質 4.9g 脂質 0.6g
塩分 0.2g 食物繊維 1.4g

1人分

245kcal

【材料(1人分)】

・長芋 60g
・だし汁 10g
・きざみのり 1g
・ご飯 120g
・だしわり醤油 3g

【作り方】

- ①長芋をすりおろし、だし汁を加えてよく混ぜる。
- ②炊いたご飯の上に①を盛り、きざみのりを飾る。
- ③食べる直前に、だしわり醤油をかける。

卵とほうれん草の炒め物

たんぱく質 3.6g 脂質 6.3g
塩分 0.7g 食物繊維 1.4g

1人分

82kcal

【材料(1人分)】

・ホーレン草 50g
・卵 20g
・オリーブ油 4g
・砂糖 1g
・塩 0.6g
・こしょう 0.2g

【作り方】

- ①卵をわりほぐし、砂糖を混ぜる。
- ②ホーレン草を4cm程度に切る。
- ③フライパンにオリーブ油を熱し、①を一気に流し入れ、強めの中火で大きく混ぜながら焼き、半熟状になったら取り出す。
- ④続けてホーレン草を炒め、しんなりしたら塩・こしょうをふり、③を戻してひと炒めする。

ぶり大根ソテー

たんぱく質 7.2g 脂質 7.3g
塩分 1.2g 食物繊維 0.5g

1人分

117kcal

【材料(1人分)】

・ぶり 30g(15g×2)
・大根 40g(20g×2)
・サラダ油 2g
◎醤油 8g
◎酒 4g
◎みりん 2g
◎おろし生姜 0.5g

【作り方】

- ①ボウルに◎を入れ、混ぜ合わせる。
- ②ぶりの切り身を約10等分に切り、キッチンペーパーで表面の水分を拭き取る。
- ③②のぶりを、①の合わせ調味料に10分つける。
- ④大根を輪切りにし、面取りして十文字の切り込みを入れる。スチームケース等に入れ、軟らかくなるまで電子レンジで6分ほど加熱する。
- ⑤フライパンに油を熱し、③のぶりを入れて煮る。
- ⑥⑤に④の大根を加え、両面を焼き、器に盛る。



秋の焼き野菜

たんぱく質 3.1g 脂質 0.5g
塩分 0.5g 食物繊維 4.7g

1人分

34kcal

【材料(1人分)】

・生椎茸 20g
・エリンギ 60g
・赤ピーマン 15g
・塩 0.5g
・レモン 20g

【作り方】

- ①生しいたけの石づきをとり、エリンギは食べやすい大きさに手でさく。
- ②赤ピーマンを食べやすく切る。
- ③①と②をグリルで8分ほど焼き、塩をふる。
- ④器に盛り、くし型レモンを添える。

フルーツ(梨&柿)

たんぱく質 0.3g 脂質 0.2g
塩分 0g 食物繊維 0.9g

1人分

42kcal

天使ギャラリーにて、初の写真展を開催しています

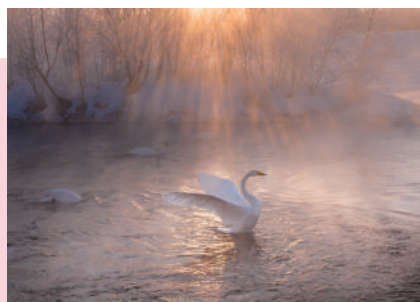
中神 由美子 写真展 『かがやきの瞬間』

昨年11月のグランドオープンの際に、正面玄関の横にギャラリーを併設しました。この『天使ギャラリー』は小さいながらも地域の“集いの場”として、広く地域の皆さんにご利用いただきたいという思いで誕生したパブリックスペースです。

このたび、その「こけらおとし」イベントとして写真展を開催しております。

ご協力いただいたのは、広報誌夏号の表紙写真を提供して下さった中神由美子さんです。中神さんは写真道展で2回の大賞を受賞するほどの実力の持ち主で、今まで撮りためていた珠玉の作品の中から25点を厳選して提供していただきました。

ぜひお立ち寄りいただき、中神さんの素敵な作品をご観賞ください。



<会期>

場 所 天使ギャラリー（正面玄関横）

期 間 平成27年9月15日（火）～11月14日（土）

※2ヶ月間の予定ですが延長になる場合もあります。

時 間 [平 日] 7:00～18:00 [土曜日] 7:00～12:30

※観覧時間は正面玄関の開放時間帯（上記）とさせていただきます。

○『天使ギャラリー』について

ご利用方法は近々ご案内いたします。

✿ 糖尿病予防教室（毎月第3水曜日 14:00～15:00開催）

<天使ホールC>



本教室は、糖尿病の患者さんとそのご家族だけではなく、糖尿病に関心のある全ての方を対象とした教室です。予約は必要ありません。どうぞお気軽にご参加下さい。

※（料理教室）事前の申し込みが必要です

| 日程 | 時間 | テーマ | 担当者 |
|-----------|-------------|-----------------------------------|----------------------|
| 10月21日（水） | 14:00～14:30 | カンパセーションマップをしましょう | 西7病棟 看護師 松田沙央理・中川ともな |
| | 14:30～15:00 | 心臓・腎臓と糖尿病の深い関係 | 循環器医師 西里 仁男 |
| 11月18日（水） | 14:00～14:30 | 低血糖を起こさないために～低血糖を起こしやすい薬、おこしにくい薬～ | 薬剤師 |
| | 14:30～15:00 | 糖尿病と動脈硬化の関係 | 糖尿病科医師 吉田 和博 |
| 12月16日（水） | 14:00～14:15 | 年末年始に備える！血糖管理に役立つ、食事と減量の秘訣 | 管理栄養士 佐々木正子 |
| | 14:15～15:00 | 低血糖は予測できるものでしょうか | 糖尿病科医師 吉田 和博 |
| 1月 | | 休み | |

広報誌 「天使びょういん」 第38号

発行日 平成27年10月15日

発行人 院長 藤井ひとみ

編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

秋号は楽しんでいただけましたでしょうか？天使病院は9月15日の創立記念日を持ちまして、104年目を迎えました。このような長い歴史があるのも、地域の皆さんが天使病院を支えてくださっていたことに他なりません。昨年生まれ変わった新しい病院とともに、これからも地域の皆さんに信頼され、愛される病院であり続けられるよう努めてまいります。

